



人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。

マタイによる福音書 7章12節

2020年
創立142年

2020年(令和2年)
3月17日
第16号

梅花女子大学

チャペル・ニュース

Chapel News

発行

梅花女子大学宗教部
〒567-8578
茨木市宿久庄2-19-5
072-643-6221(代)
072-643-8997
E-mail skb@baika.ac.jp
澤山記念館1階

私は今、心臓病の子どもを守る京都父母の会の病児保育所「パンダ園」の保育士をして42年になります。パンダ園は心臓病と様々な病気のお友達のための保育所で、その子たちが健常児と一緒に楽しみ、共に育つ場です。病児だけでなくその保護者も、ボランティアさんを含めた周りの人々から温かく見守られることで、子どもを抱える愛と力、生きる勇気を引き出してもらえる場所です。パンダ園での私の仕事は、ご両親に授かった子どもへの命の素晴らしさを感じてもらおうことだと思っています。私は「預かる」「授かる」という言葉が大好きです。この言葉には、贈り主である神から、信頼関係の中で、慈しんでいるものを託された光栄を感じさせる響きがあります。



「病児から零れるいのちの輝き」
こぼ

パンダ園保育士 佐原 良子



そのことに気づかせてくれたのは、5歳を前に天国へお返しした私の二男でした。最初の子(長男)を出産する直前、真夏の暑さとしんどさでくたくたになっていた時、「五体満足な子どもだったら何も贅沢は言わない」と言うので、夫から「迎える親がそんなことを言うてどうする!」と叱責され、私ははつとしました。「元気な子ども、五体満足が良い」という思いだけで迎えるならば、もし授かった子に障害や病気があると、本来その子の持つ特性や価値に気づく前に悲壮感に打ちのめされて、喜びどころか、育てる気力さえ失うかもしれない。このやりとりの後は「神様から最も良きものを授かる」という畏敬と感謝をもって、神からの贈り物を心待ちにする姿勢に変えられました。そして次に、心臓病の二男を授かりました。

二男の契児は3回の手術を受けました。1回目は生後6ヶ月の時でした。医師に50%の成功率との告知を受け、元気に産んであげられず、しんどい思いをさせることに心から詫びる思いが溢れてきました。それでも2回目の手術も無事に終え、3歳になると家に帰って楽しい時を過ごすこともできました。その間、悲しみに押しつぶされそうな時も、神様の大きな翼に抱えられるような安らぎを覚えては、涙を拭かれることもありました。しかし耐えられないような試練もあり、それは3度目の手術後にやってきました。その手術中に脳の血管に血栓ができ、4ヶ月もの脳死状態が続いた契児には、「回復不可能」との診断結果がおりました。そのことを知らされた時、私は止めどない涙の中で「神様、このことをご存じですか? 契児一人にこの荷を負わせないでください」と悲痛な訴えをしていました。その時、私の脳裏に浮かんだのは十字架上のイエスの姿でした。イエスも十字架上で「わが神、わが神、なぜ私をお見捨てになるのですか」との悲痛な叫びを、神に向けておられたのです。私の苦しみを深く知ってください。私の愛が迫ってきました。「独り子を十字架につけてまで人間を贖おうとされる神様は決して無意味なこととはなさない。虚しい命はおつきりにならない!」と思いついた時に、自分では抱えきれない悲しみや失望も神のなされる業と感じ、契児を抱える希望と力を与えられたのでした。こうした沢山の悲しみや涙があったから、今パンダ園の子ども達やお母さん達との交わりを持たせてもらっているように思います。

私は二男の入院当初、家に残して
いた他の子どもや留守にしている教
会のことを考えては1日も早い退院
を願っていました。しかし「回復し
ない」と言われて初めて「この一番
しんどい時こそ、今一緒にいる人た
ちとその痛みを共有できる時です
よ!」との神の勧めがあるように感
じられ、私にとって病院はそこへと
招かれた大切な場になりました。

病院では沢山の人から様々な思い
を授かったように思います。真夜中、
同室のお母さんのすすり泣く声に気
づき声をかけますと、昼間子ども
の見舞いきた身内に「あなたが元氣
に産んでやらなかったから、この子
はこんな可哀想な目に遭うんや」と
言われ、耐えきれずに涙しておられ
たのでした。また夜中に赤ちゃんが
亡くなった時、看護師さんがナース
ステーションの机を叩いて「なんで
あの子が死なんならんの? 大人な
ら不摂生で病気になることもある。
でもあの子は違う!」と地固駄を踏
んで、涙しながら怒っておられたこ
とがありました。

私は聖書の中で、イエスが生まれ
つき目の見えない人のことを、「両親
や本人の罪のためではないよ。この
人から神の栄光が顕れるためだよ」と
語られたことに慰められました。
契児は小児科病棟でお友達にも囲ま
れ、楽しませてくださるママもいて、
いつも笑顔がはじけていました。し

かし脳死状態になりますと、無表情
や苦しそうな表情だけになり、私自
身辛い思いをすることもありました。
しかしどのような時も、虚しい命は
ないことを心に響かせてくれる神が
いました。そうした経験を通して、
私は私にとつての聖書のように「あ
なたの命は素敵だよ」と語ってくれ
る絵本、病児が寂しい時にベッド上
で開き、その家族も元氣になれる絵
本が欲しいと望むようになりました。

そして神様に「病児のための絵本
をください」と祈り続けて2年が経つ
た頃、パンダ園のある3歳児が手術
を受けることになりました。その時
に、手作りの絵本をプレゼントした
のです。絵本の中に出てくる病児の
「僕ががんばった」という言葉が、その
まま術後のICUで泣きべそをかき
ながらの第一声だったと、お母さん
は感涙されました。その姿に背中を
押されて、この手作りの絵本を整理
して出版することを決意しました。
その売り上げから全国の病院の子ど
もたちに絵本を贈りたいと考え、出
来あがった絵本が「かみさまのおて
つだい ぼくびょうきでいいんだね」
つだい ぼくびょうきでいいんだね」
でした。

私は契児
に「家に帰っ
てお兄ちゃ
んと遊びた
い!」なん
で僕だけ病



「かみさまのおてつだい
ぼくびょうきでいいんだね
さあ、おてつだい
さあ、おてつだい
さあ、おてつだい」

院にいて痛いことをするのか?」と訊
ねられた時、「契児は病氣になって嫌
なことも沢山あるね。でも他にもそ
んな人がいっぱいいるね。神様は契
児が優しいから、『しんどいの同じや
ね』仲良くがんばろうね」と言うそ
んなお仕事に選んでくださったのよ
と答えていました。契児は目を重ね
るごとにその想いを受け入れるよう
になりました。この契児とのやりと
りが元となった絵本の「子どもたち
が治療や手術を克服し、痛む目をし
て頑張った自信につなげてほしい」
との願いは、前述の3歳の子どもに
も伝わったようでした。

私が手がけた2冊目の絵本は『う
れしいときってどんとき』です。
この絵本
では、病児
でありなが
ら周りに元
気を作り出
すパンダ園
の子ども達
を描きました。これらの絵本は7冊
売れる度に1冊を、沖縄から北海道
の国立から町立病院へと贈り続けま
した。すると患者さんや病院のスタッ
フも応援してください、子どもを天
に送った一人のお父さんは「私にも
手伝わせてください」と200冊を
販売し、「多くの病院に絵本を贈って
ください」とカンパまでしてくださ
いました。



この絵本
では、病児
でありなが
ら周りに元
気を作り出
すパンダ園
の子ども達
を描きました。これらの絵本は7冊
売れる度に1冊を、沖縄から北海道
の国立から町立病院へと贈り続けま
した。すると患者さんや病院のスタッ
フも応援してください、子どもを天
に送った一人のお父さんは「私にも
手伝わせてください」と200冊を
販売し、「多くの病院に絵本を贈って
ください」とカンパまでしてくださ
いました。

病児に関する3冊目の絵本は、病
気のため3歳で天国に帰ったパンダ
園のお友達を主人公に描いた『サン
タてんし3さい』です。亡くなるこ
とがこの世の終わりではなく、これ
からもその子が辛さや悲しみを抱え
た人に寄り添って元氣と優しさを贈
る仕事をしていくお話です。



私は短い人
生だった二男
契児から多く
の気づきと愛
をプレゼント
されました。
あの子の人生

は確かに苦しみもありましたが、沢
山の人の痛みに寄り添い、どん底に
あっても揺らぐことのない希望を届
けてくれるものでした。まさに授かっ
た命でした。
病児からこうした前向きな想いを
受け取ったのは、私だけではありま
せん。かつてパンダ園に片道2時間
半もかけて通ってくる親子がいまし
た。子どもはカントレル症候群といっ
て心臓がお腹から飛び出た難病のた
め、周りの心配は大きかったと思ひ
ますが、パンダ園では元氣いっぱい
に体で喜びを表現する子どもでした。
パンダ園の初日、喜びを爆発させる
我が子を見て、お母さんは涙を拭う
ハンカチが手放せませんでした。
その子がパンダ園での経験が実績
となって、近隣の保育園にやっとな

園できた時、お母さんは「○○ちゃんには命について考える仕事をさせてもらったよ」と嬉しげに話してくださいました。それは保育園に入園する際に、先生が他の子ども達に「○○ちゃんがしんどそうな時、先生に教えてね。みんなで○○ちゃんの命を守るお手伝いをしてね」と紹介してくださったというのです。病や障碍を抱えた子どもを通して、みんな命を学ぶ機会を得た瞬間だったのでしょうか。

その子は3歳で天に召されましたが、その後お母さんは看護の資格を取得し、病児を訪問して医療ケアだけでなく、楽しい時間を提供する仕事を始められました。このお母さんもまた、我が子から受け継いだ命のお仕事を始められたのです。他にも沢山の事例をあげることができ、それが病児達がその命を通して周りの大人達を育てた話ばかりです。

私にとって、「悲しいだけの命ではないね」「決して虚しいだけの命ではないね」と繰り返し語りかけてくれた契児の命は、亡くなった今もキラキラと輝き、私を病児たちの輪の中に置いてくれています。パンダ園に導いてくれた小さな彼が、パンダ園に常に寄り添い、見守ってくれている気がします。神と梅花の皆さんのご支援に感謝しています。



〈チャペル・アワーの奨励より〉

「梅花ファミリィ」

同志社大学神学部元教授 本井 康博



＊「梅花の時代」

いよいよ「梅花の時代」です。来週、元号が代わりますから、皆さんにとっては梅花女子大学に入ったとたんの改元ですよ。

新元号の典故は「万葉集」中の「梅花の歌三十二首序文」という漢文。ここから漢字二字が抜き出され、組み合わされました。で、新元号の発表以来、「梅花の歌」が実際に詠まれた福岡県大宰府の「梅花の宴」跡地（坂本八幡宮）が大賑わいです。

大宰府と言えば、京都の北野天満宮から流された主の菅原道真を慕って一夜にして飛来した「飛梅」伝説が有名ですよ。

「梅花の宴」と梅花学園とは無関係です。それでも飛梅にあやかり、「梅花の時代」の風に乗って空高く飛翔する梅花でありたいですね。

さて、改元に際して想い起される

のは、梅花学園のネーミングです。新元号と同じく「合成」ですから。

梅花女学校を創った大阪のふたつの教会(当時は公会の名前から来ています。梅本町公会の「梅」と浪花公会の「花」)です。

梅花は父母の名前から一字ずつ貫って命名された子どもなんです。

最初から「梅の花」狙いじゃありません。梅本町も浪花も、もともと地名ですから。

梅本町公会は、その後、大阪教会と改称されましたので、改称後の開校なら「大花」学園とか「阪梅」学園になっていたかもしれませんね。

＊会衆派学校の「三姉妹」

梅花女学校の親にあたるふたつの教会は、教派的にはいずれも「会衆派」でした(一九四一年からは日本キリスト教団)。カトリック(聖心女子大学など)や聖公会(立教大学など)じゃなくて、プロテスタントです。

ですが、プロテスタントはさらに多数の小教派に分かれています。梅花は、関西学院系のメソジスト派や大阪女学院系の長老派ではなくて、同志社系の会衆派というプロテスタントの一派です。

梅本町公会は大阪で最初(一八七五年)の会衆派教会です。一方の浪花公会も同じく二番目で、澤山保羅先生が牧師でした。先生は、浪花教会を立ちあげた翌年(一八七八年)に、梅本町公会の人たちと一緒に梅本町公会の人たちと一緒に梅花を設立されましたので、牧師と教育との「二刀流」です。



創設期の梅花女学校校舎(1879年)

こうして生まれた梅花女学校は、大阪では現存する女子校中、一番古いキリスト教学校です。

しかし、大阪以外では会衆派系女学校はすでに二校創られていました。神戸女学院と同志社女学校。こちらそれぞれ神戸と京都では最初のキリスト教女学校です。

これら三つの学校には、会衆派DNAが共通に組み込まれていますので、さながら「三姉妹」です。

＊梅花ファミリィ

三姉妹の中では、梅花は三女です。長女の神戸は三個上、次女の京都は二個上というこの三姉妹がスゴイのは、神戸、京都、大阪でそれぞれ一番早くに誕生したキリスト教女学校だということです！輝かしい歴史と由緒ある伝統をもったスゴい姉妹ですよ。

梅花の親教会や、同時期に生れた姉妹校は、いわば「梅花ファミリー」ですが、実はほかにも家族がいます。天満教会です。

澤山先生が浪花公会と梅花女学校を建ててすぐに起こされ、自身も牧師とられました。浪花公会とは地理的にも近いうえに、血筋的にも浪花公会の妹ですから、梅花からすれば、「叔母さん」にあたるでしょうか。この叔母さんは、齡こそ梅花の一個下ですが、しだいに梅花の親にあたる浪花公会に負けないほど、梅花の有力な保護者になります。

たとえば、梅花の校長です。天満教会の牧師をしながら、無給、もしくは貧しい給与で校長を兼務する先生が二人も出たり、有力な教会メンバーが専任校長に就いたり、といった支援振りです。三人が校長を務めた期間を合算すると、なんと五十数年！ 百四十一年の学園の歴史のうち、実に四分の一を占めます。

東京にも梅花の親戚がいますよ。日本女子大学です。梅花を澤山先生と共に立ち上げた成瀬仁蔵先生が、一九〇一年に目白で始めた日本初の組織的な女子大です。

当時、成瀬先生は会衆派牧師をすでに辞めていましたから、日本女子大は純然たるキリスト教(会衆派系)大学ではありません。この点、京阪神の「三姉妹」とはちょっと毛色が違うので、妹とは呼びにくいのですが、梅花にしてみれば、創立者が同

じだけに、「いとこ」みたいな親戚と云ってよいでしょう。

ちなみに日本女子大の開校予定地は、最初は大阪(天王寺区清水谷)で、校地(いまは大阪府立清水谷高校)も確保済でした。もしも清水谷に出来ておれば、梅花とは近所づきあいが生まれただけにちょっと残念ですね。

ファミリーと言えば、私もほぼ仲間です。中高とも同志社でしたので、梅花の名前には早くから馴染みがありました。同志社の創立者である新島襄の「追っかけ」を仕事にしてからは、澤山先生や成瀬先生、梅花学園のことも調べるようになりました。澤山先生は会衆派の牧師として新島襄の後輩にあたり、しかも二人は「二刀流」の同業者です。だから、私は梅花の「義理の叔父さん」では、と勝手に自認しています。

❖「ボツチ」ではない

このように梅花は、温かい「梅花ファミリー」の愛情に包まれ育まれてきた学校です。けっして「ボツチ」じゃない。家族を束ねる「センター」は、澤山先生です。

先生はなぜ教会と学校を創られたのか。教会が目指す人づくりを学校でもやらなければ、日本はほんとの意味でよくなるらない、という固い信念と熱い想いからです。じゃ、どんな学校が理想なのか。

今日の礼拝の讃美歌「♪昔主イエスの詩きたまいし」は私の愛唱歌、

そして聖書は澤山先生の愛唱句で、同時に梅花のスクール・モットーです。「人にもあなたも人にも思ふことは何でも、あなたがたも人にしなさい」(「マタイによる福音書」七章十二節)。

梅花は入学生を「人を愛し、人に尽す」、つまりは「人に仕える」学生にグレードアップさせるために創られた学園です。だから「愛と奉仕の学校」なんです。「愛と奉仕」は皆さまの学園生活を導いてくれる大切な「ナビ」で、卒業して社会に出てからも立派に通用します。新入生は、梅花でこのアプリを取り込む努力をしてください。確保できれば、それだけで梅花に入った価値はあります。



小学科生徒 土佐堀校舎(1890年)

❖「愛と奉仕の学校」

最後に「義理のおじさん」からのお勧めです。「梅花ファミリー」を最も深い所で、人知れず支えて下さっているのが、神さまです。神さまは澤山牧師に働きかけて梅花を創り、愛と奉仕に生きるレディを世に送り出したいと望まれました。

その期待に応えるためにも、梅花とゆかりの深い姉妹校や親教会などファミリーの方々との交流を忘れないでください。

少なくとも、気持ちの上で繋がりがや親近感を抱いてください。そのためには皆さまが、まず自分から「梅花ファミリー」意識を高め、その一員になろうと努めることが肝心です。

こうした覚悟や自覚を持って毎日の学生生活を送っていけば、神さまが見えない所でファミリー全体を見守っておられることにきつと目が開かれるはずですよ。それに気がつくだけで、卒業後の人生も必ずこころ豊かなものになります。他の学校を出た人から、「やっぱり梅花の卒業生は違うわね」と言われますよ。

さあ、「愛と奉仕の学校」での四年間の幕開けです。皆さまのこれからの奮闘を祈りつつ最後はホンモノの「梅花の歌」で締めます。

昨年作られた学園応援歌の結びの一節で、私の先輩、児玉美英先生(元同志社女子大学長)の作詞(英文)です。

「♪Baika, Baika, shine and shine」

〈チャペル・アワーの奨励より〉

「自分ファーストではなく」

児童養護施設レバノンホーム理事長
日本基督教団池田五月山教会牧師

有澤 慎一



創世記13章1節〜13節

旧約聖書の創世記13章はアブラハムと甥のロトの話です。

アブラハムは今のイラクのあたり、古代メソポタミア文明の栄えた大都会カルデアのウルから北部のハランに移り住み、父親のテラや親族の人たちと、羊を飼う生活をしている時に、神さまヤハウェと出会います。

アブラハムは神ヤハウェからこう命じられます。「あなたは生まれ故郷、父の家を離れて、わたしが示す地に行きなさい。」私はあなたを多くの人々を神さまの祝福の中に招き入れることができる存在、祝福の源にしてあげると。

住み慣れたハランの地を離れ、父親や母親、親族とも別れて、行った

事もない土地に行けというのです。

しかもそこでちゃんと生活していける保障ありません。あるのは神さまの約束の言葉だけです。アブラハムは悩みますが、神さまの言葉に従って旅立つ決断をします。神さまがアブラハムに行けと命じられたのは、カナンの地、今のイスラエルとパレスチナのあるところでした。

この時、アブラハムとサラ夫妻にはこどもがなかったので、兄のこどもである甥のロトを自分のこどものようにして連れて旅だったのです。

この後、アブラハム・サラ夫妻と甥のロトは苦楽を共にして旅を続けるのです。アブラハムは甥のロトを自分のこどものようにかわいがり、信頼し、大切にしました。アブラハムたちは羊や牛を飼う遊牧民です。遊牧民にとって羊や牛が財産でした。アブラハムも甥のロトも、神さまの祝福を受けて旅を続ける中で、多くの僕たちを抱えるようになり、羊や牛の数も非常に多くなってきたのです。

アブラハム一行は飢饉を避けて、一時、エジプトに避難していましたが、またカナンの地に帰って来て、

ベテルというところに到着しました。

アブラハムも甥のロトも多くの羊や牛を連れていました。それらの羊や牛を養うための牧草地と水が必要でした。

ベテル周辺には多くの牧草地や水場がなかったため、アブラハムの僕たちとロトの僕たちの間で、牧草地と水をめぐって激しい争い、対立が起ったのです。お互いの利害と利害がぶつかり合っただけでなく、親子の間に信頼し合い、仲良く一緒に歩んできたのに、ここで利害と利害がぶつかり合っただけでなく、対立してしまっただけです。

さあ、皆さんならどうしますか。自分がアブラハムになったつもりで、また甥のロトになったつもりで考えてみてください。

当時の族長、一族の長、リーダーは絶大な権力を持っていました。アブラハムがその族長、一族のリーダーでした。普通、絶大な権力を持っている者は、力で相手を抑えつけて、自分が有利な立場になれるようにもっていかなくてはなりません。もし私がアブラハムのような絶大な権力をもっていたら、甥のロトに対して「俺の言う事を聞け」と言っただけで、力を抑えつけて、自分が良い牧草地や水場を全部おさえて、甥のロトをどこか違う土地に行けと追い出しにかかると思います。

まさにどこかの国の指導者のように自分ファーストです。自分の利害を優先させます。しかし、アブラハムは信仰を持っていました。アブラハムは神さまが喜んで下さる道はどれかと悩みながら考えました。そして違う方をとったのです。

アブラハムは信仰に基づく決断をし、二つの良い事を行いました。一つ目は、争いを止めようと自分の方から提案したことです。アブラハムと甥のロトは本当の親子のように信頼し合い、今まで苦楽を共にして生きて来たのです。このまま損だ、得だといって争い続けたら、どちらも深く傷つくし、争いがエスカレートしたら、僕たち同士で殺し合いになるかもしれないし、一緒に滅んでしまうことになる。だから争いは止めようとアブラハムは甥のロトに提案したのです。

私たちもいろんな人間関係の中で、けんかしたり、対立したりします。しかし争いをエスカレートさせたら、どちらも滅びると神さまは言っておられます。怒りの力をコントロールできず、感情のままに行動する人は、多くの人を傷つけ、自分も滅んでいく事になります。

アブラハムは甥のロトとの争いを止めるために、別々のところに住む提案をします。その時に、アブラハムは甥のロトに、「一つの土地のうち、良い方を先に選べと選択権を与えたのです。これが2つ目のアブラ

ハムの信仰の決断です。ペテルの地は高い丘の上にあったんですね。そこから東南の方向を見ると、ヨルダン川沿いの肥沃な低地が広がっていました。緑と水が豊かな素晴らしい土地です。羊や牛を飼うには最適の土地でした。近くに物質文明の発達した大都会もありました。そこに行けば繁栄と成功が待っているように思いました。

ペテルの地から反対の西南の方向を見ると、そこは乾燥したやせた土地と岩だらけの山が続いていました。そこに行けば苦勞がいつばい待っているようです。さあ、右か左か、東か西か、好きな方を選んでアブラハムは甥のロトに言ったのです。さあ、皆さんならどちらを選びますか。誰だって良い土地の方を選びたいですね。

アブラハムもきつとそうだったと思います。しかし、アブラハムは神さまを信じていたので、自分の利害にしがみつかないで、相手に選択権を与えたのです。自分は損をしてもかまわないという姿勢をとったのです。ここがアブラハムの優れているところですよ。アブラハムは神さまを本当に深く信頼している人です。

人生の中で、自分が損をし、人より不利になり、苦勞する道を選んだとしても、神さまは決して私の事を見捨てたりされないし、苦勞する中でもちゃんと支えて下さるし、自分を訓練し、育ててくださる方だとア

ブラハムは心から神さまを信頼しているのです。だから、利害がぶつかり合う時にも、争い続けるくらいなら、自分が一歩引いて、自分が損する道を行ってもかまわないという態度をとれるのです。

さて、先に良い土地を選んでよいとアブラハムから言われた時、甥のロトはどうしたでしょうか。ロトは大いなる繁栄と成功が待っているように思える町と豊かな土地の方を選んで、そちらに移住したのです。アブラハムは反対の方、荒れ地と山地の方へ移り住みました。

人間的に考えたら、損か得かで考えたなら、明らかにロトは得する道を選び、アブラハムは損する道を選びました。ところが神さまは驚くべきことをなさいます。これをひっくり返してしまわれるのです。

この後、どうなったかというところ、荒れ地と山地に進んだアブラハムは多くの苦勞を経験しますが、その中で一つ一つの事柄に神さまの支えがあり、一歩一歩その苦しみを乗り越えながら、最後に神さまの素晴らしい祝福を受けることになりました。

得をしたはずのロトは、豊かな土地と町を選んだロトは、このあと、様々な誘惑にあい、神に背き続けるソドムとゴモラの町の人々と一緒に神さまの裁きを受けて、滅ぼされる寸前まで行き、何とか天使によって助け出されますが、蓄えた財産も妻も失い、多くの物を失ってしまうので

す。そして全く幸せになれませんでした。

キリスト教会に来ている人の中には、この地上でアブラハムのような生き方をした人がたくさんいます。損か得かで言えば、損することが多くても、ぶつぶつ不満を言わず、神さまのため、人を愛するためなら、あえて自分が損してもかまわない。自分が苦勞してもしんどい思いをしなくてもかまわないという生き方をする。自分の利益を最優先する自分ファーストとは正反対の生き方、これが神さまの愛に生きるということではないでしょうか。それができるのは、神さまを自分の人生を支えて

〈チャペル・アワーの奨励より〉

「背負われているわたし」

日本基督教団豊中教会牧師 山崎 道子



マルコによる福音書 2章1〜12節

先日、何気なくテレビのニュースを見ていたら、あるユーチューバー

くれる方として心から信頼しているからです。

たとえ自分が苦勞する道を選んでも、神さまはちゃんと弱い私を支え続けて下さる。そして最後にはほんとうに幸せな人生だったと思えるように導いてくださる。そういう神さまに對する深い信頼があるから、自分が損してもかまわない、苦勞することになっても大丈夫と思えるのです。

が、渋谷のスクランブル交差点のど真ん中にベッドを運んできて動画を撮影し、警察に捕まったというニュースがありました。彼らの動機は、ただ「面白いことをやりたかった」ということだそうなんです。おそろしく炎上狙いで有名になったかっただけですが、1ミリも面白くありません。人から認められたい、注目されたい、スゴイと言われたい。そのように他者からの評価を求める心のことを「承認欲求」と言いますが、

だからと言って何の考えもなしに犯罪や迷惑をいとわないというのは、あまりにも動機が不純で幼稚だと言わざるを得ません。

ただ、そんな稚拙な理由で目立とうとしたこのユーチューバーたちは動機が全く違います。その行動、ベッドをあり得ない場所に運び込むという行為そのものだけを見れば、少し今日の聖書の話と状況が似ているかもしれません。

今日の箇所は、イエスの滞在していた家の中に大勢の人が押しつけてきた場面から始まります。この家はペトロの家であったとも言われています。

このとき、イエスは宣教活動を始めただけで済んだ。イエスはその活動において真つ先にやったこと。それは、病気の人、それも人々から見捨てられ、罪人の烙印を押されて苦しんでいた人々を、罪と病から解放することでした。

ところが、イエスが次々と病人を癒しているという噂が広まって大騒ぎとなり、みんながイエスのところに押し寄せたのです。おかげでイエスは家の中から一歩も出られないばかりか、その家の中にまで人々が入り込んで、戸口のところで一杯になりました。

そこで、ビックリするようなことが起こります。中風という病気で体が麻痺した人を、その友人たちが担架に寝かせたまま運んで連れてきた

のです。ところが、イエスのいる家の中にはあまりに人が多くて中に入らなかったの、なんと彼らはその家の屋根をはがして、病人を担架に寝かせたまま、イエスのいる場所の目の前に天井から吊り降ろしたのです。

イエスはそれを見てびっくりされたに違いありません。しかし、イエスは彼らの非常識な行いを怒るどころか、友だちの病気を治してもらうために突拍子もないことをした男たちの中に、確かな信仰を見たとき、聖書はそう語っています。

もし、わたしたちがこの場にいたら、そういう光景を見たとき、真つ先に何を思うでしょうか？ この出来事の中の、どこに、また誰に注目するでしょうか？

目の前に、屋根がはがされて病人が吊り下ろされているとんでもない光景。それを見ながら、どんな感情が湧いてくるでしょうか？

家を壊すなんてひどいと腹を立てるでしょうか？ それとも、壊された屋根をどうやって直すか、修理代の計算を頭の中で始めますか？ あるいは、「あなたたちの気持ちは分かるけれど、これはやり過ぎでしょう」とたしなめるでしょうか？

自分も病気を癒してもらいたいうちの一人であつたら、いきなり順番ぬかしをした彼らを「ずるい」と非難するでしょう。

いずれにせよ、その場にいたほと

んどの方は、この常識はずれの男たちに対して否定的な感情を抱いたに違いないと思うのです。

ところがイエスは違いました。方法はどうかあれ、イエスに会いさえすれば必ず病が癒されると信じて、友人を担いできたこの男たちのふるまいを見て、連れてこられた病人の「罪のゆるし」を宣言されたのです。

その宣言とは、この病人がもはや、神に見捨てられた悲しき罪人ではないという宣言です。友人たちの篤い信仰によって、「あなたはもはや罪人ではなく、神に愛される存在へと回復されたのだ」と、イエスははっきりと語られたのです。

罪をゆるすというのは、具体的に、その人の今の姿、今置かれている状況を否定せず、良しとする、「それで良い」ということです。

もし、あなたがこの中風の病人だったらと想像してみてください。担架で運ばれてくるくらいです

ら、あなたの病状は相当重いはずで、体は麻痺して動きません。衣食住のすべて、トイレも含めて、常に人の手助けを受けなければなりません。仕事をすることもできず、おそらく外出も無理。みんなが礼拝をする安息日に会堂へ行って祈ること、神の言葉を聞くこともできなかったでしょう。

そんなあなたを他の人たちは罪人だと言うのです。原因の分からない病気が治らない病気が、その人やそ

の人の先祖が罪を犯したせいだと考えられていた時代です。お前の病気は罪のせいだと言われる理不尽さ。また、自分のせいで家族にも迷惑や肩身の狭い思いをさせてしまっているうしろめたさ。

さきほどの「承認欲求」の話ではありませんが、この病人の苦しみは、単に体が動かないだけではなく、自分という存在を誰にも認めてもらえない、価値がないとレッテルを貼られることによる「魂の飢え」であり「存在の苦しみ」でした。

イエスは、罪人とされて自分の存在を否定され続けて来たこの病人と、その人を救うために行動した友人たちを見て、「あなたの罪はゆるされる」と皆の前で宣言されました。この言葉を聞いた病人も、友人たちも、どんなに嬉しかったことか。きつと心から救われた思いがしたでしょう。

ところが、このイエスの言葉を聞いて、居合わせた法律学者たちは内心腹を立て、心の中でイエスを批判しました。ただでさえ、とんでもないことをやらかした非常識な連中なのに、勝手に罪をゆるすなど、神を冒瀆していると思つたのです。そんな彼らの心を見透かしたイエスは、病人に、「立ち上がって家に帰れ」と言われます。すると、この病人が、今まで寝かされていた担架をかついでスタスタ歩いて家に帰つたのです。大変不思議な、しかし印象的な

出来事です。

この場面。イエスは心の中でどう思っていたのでしょうか？

これはあくまでわたしの想像でしかありませんが、もしかしたら、イエスはこの突拍子もないことをやらかした男たちの姿、また、目の前に天井から病人が釣られて下ろされてくる様子を見て、怒るより笑ってしまったのではないか、あきれながらも「そこまでやるか！」と、感心して見守られたのではないかと私は思うのです。

イエスという人は、人間の常識とか建て前とか、そういう小さいことにいちいちこだわりません。大切なこと、何より目に見える人の行動ではなく、そこに表されている人々の心、真実をズバッと見抜く方です。そのイエスから見て、この出来事は、人が友のためにそこまでやるのかという、すごいハブニングとして、忘れられない、またかけがえない体験となったのではないかと思うのです。

話は変わりますが、以前教えていたキリスト教の学校の聖書の授業で、心臓移植を受けた中学生の女の子のニュースを取り上げたところ、たまたま教えていた何人かの生徒の小学生時代の同級生だったことが分かりました。

その女の子は、一億円の募金を受けてアメリカで手術をし、今は元気で過ごしているそうです。ちょうど

教室にいた何人かの生徒たちも、当時同級生だったその女の子のために募金もしたと言っていました。ところがその次に、その生徒がこんなことを言ったのです。その言葉を聞いて、わたしは心が一瞬凍りついた思いがしました。女の子のために募金をしたその子は、「あの子の命は私のお金のおかげやで」と言ったのです。

親はきっと我が子の命を救いたい一心だったのでしょうか。でも、中には人にお金を恵んでもらってまで、それも外国に行つてまで手術を受けることを非難する人もあります。でも、人がどうするかではなく、自分がどうしたいか。その家族はきっと悩んだ末、たとえ困難でも、批判されたとしても、少しでも可能性のある方法を選ぶ決断をした。ある意味では、この国のルールを飛び越えてでも、娘のいのちを助ける可能性にかけたのです。

：自分ならどうするか、わたしには分かりません。昔の話ですが、わたしの知人のある夫婦は、中学生の息子がガンになったとき、最後までそのことを家族に知らせず、できるだけ日常生活を続ける選択をされました。その子は亡くなる直前まで、病気のことを知らずに普通に生きて、そして亡くなりました。親は、その選択が良かったのか悪かったのか、おそらく一生、今も問い続けて生きている。どちらを選んで、心

に重荷は残るのです。

先ほどの募金を受けてアメリカで手術を受けた女の子は、いのちが助かって元気になりました。同時にこの子は、見ず知らずの多くの人からもらった募金でいのちを助けられたという事実を、一生自分の荷物としてしょっていくことになる。さっきの生徒が発したような何気ない一言に傷つくこともあるでしょう。また、自分の人生に果たして一億円もらうだけの価値があるかと悩む日が来るかもしれません。病気が治つてめでたしめでたしではない。それは、彼女が一生負い続けなければならぬとて重い荷物になるでしょう。

でも、イエス様なら、きっとこのどちらの親子に向かつて、今日のこの聖書と同じように、「あなたの罪はゆるされる」と宣言してくださるでしょう。

世の中の人のように、あなたの選択は正しいとか間違っているとかが言つて批判したり、裁いたりするのはなく、「あなたの選択、あなたの重荷はゆるされる。神はちゃんとあなたのことを愛している。あなたは見捨てられていない。大丈夫だ」と、そう言つてくださる。それがイエス・キリストの福音です。

わたしたちは、いつもベストな選択ができるわけではありません。迷っている内にタイムリングを逃したり、あの時、ああしなければ良かった、あんなことを言わなければ良かったと……。逆に、あの時、ああしていれば……と、後悔することばかりです。でもイエスは、いちいちその選択は正しくてその道は正しくないと、人を評価して裁く方ではありません。

イエスは、わたしたちが正しくても間違つていても、その行く先をいつも見守つて、思うように生きられないわたしたちの重荷、神様に対する負い目をゆるしてくださるのです。

わたしたち人間は皆、自分がかわいいですから、普段は自分の利益や救いだけを考えています。でも、人生を重ねる中で次第に分かつてくるはずで、救われるというのは、わたしひとり天国へのパスポートを手に入れることではない。今生きているこの世界、家族や隣人と一緒に生きていく中に、本当の喜びがあるということ。人と人との不思議なつながりの中にわたしたちは置かれていて、あの、天井を剥がしてまで友人のために行動した男たちのように、時には思いがけないところで、誰かが自分のために祈つてくれることに慰められる。自分のために労を惜しむことなく行動してくれる友に救われる。

そんな風にながら、やがてわたしたちは、自分の重荷と一緒に背負ってくれる人がいることに救われ、許され、生かされている事実を知るのでないでしょうか。

そして誰よりも、イエス・キリストが、わたしたちの人生の重荷も、失敗も、後悔も、まるごと許して一緒に背負って歩いてくださるので。ですから、わたしたちは人生の良いときにも、悪いときにも、どんな時にも安心して歩んでいけるのです。そして、時には批判されることを恐れず、今度はわたしたちが、大

〈チャペル・アワーの奨励より〉

「英検準 2 級」

日本基督教団神戸雲内教会牧師 床次 隆志



ルカによる福音書 15 章 11 ～ 24 節

英検準 2 級、中型自動車第一種運転免許、中学校・高等学校教諭一種免許宗教科。これらは私がついていく免許・資格と呼ばれるものです。学生時代、よく言われたことは「付加価値を持つ」ということでした。トピック 600 点以上、英検 2 級といった付加価値があると、社会に認められるという風潮がありました。

切な人のために、勇気をもって一歩を踏み出すことのできる人になっていくのです。

愛される人から愛する人へ、助けられる人から助ける人へ、いつも誰かに背負われているわたしだからこそ、きつと同じように誰かの重荷を一緒に背負う人に変えられていく。そうありたいと、心から願っています。

た。高校時代、英検 2 級を取ろうと目指しましたが、失敗に終わり、準 2 級しか持っていません。みなさんほどのような免許あるいは資格を持つていますか。付加価値を求められる社会に今、私たちは生きているように思います。

今日はルカによる福音書 15 章の「放蕩息子のたとえ」を読んで頂きました。二人の息子を持つ父親がいました。ある日、次男である弟の方で、父親に対し、財産分与を願い出たので、父親はそれに応じました。その息子は数日の間に換金して、遠く離れた場所に旅立ち、そこで放蕩の限りを尽くして、財産を無駄遣いしました。その頃、彼はそこで起きた飢饉に遭い、豚の世話をしてひもじい日々を過ごしていました。故郷

にいる父親の存在を思い出しそこへ帰ることにします。そして、彼は父親に対してこう語ります。

「お父さん、わたしは天に対して、またお父さんに対しても罪を犯しました。もう息子と呼ばれる資格はありません(15 章 21 節)。

彼は「資格」という言葉を使います。彼は自分にはその家族にふさわしい資格というものが無いと言っています。

資格がない。親思いの人であれば、親に何か財産を与えてやりたいといった親孝行、あるいは親が他の親がうらやましがるような名誉や功績を残し、親の株を上げることかも分りません。この息子はここで資格、つまり何かを持つという生き方によって、自分は子であるのだということを示そうとしたのでしょう。だから、彼はもう息子と呼ばれる資格はありませんと言ったのです。そのような息子に対して、父親はこう語ります。

「……急いでいちばん良い服を持って来て、この子に着せ、手に指輪をはめてやり、足に履物を履かせなさい。それから、肥えた子牛を連れて来て屠りなさい。食べた子牛を連れて、いなくなつていたので見つかつたからだ。」そして、祝宴を始めた(15 章 22 ～ 24 節)。

父親は息子とは異なる視点に立っています。息子は自分の持っていること、資格といったことを中心とす

る考え方に立っています。しかし、父親は彼が持っている資格、功績などに注目するのではなく、死んでいったと思っていた息子が今生きている、存在している、あるということに注目しています。そして、父親はそのことに喜び、パーティーを開きました。パーティーはしばしば学校の卒業、入学、就職といった時に行われます。私は高校の時、テストで良い点数を取ると、父が心斎橋のラーメン屋に連れて行ってくれました。それはそれでうれしいことでした。

しかし、放蕩息子の父親は息子が生きている、いのちがある、存在していることに喜びます。

イエスもまた、放蕩息子の父親と同じ思いを抱きました。イエスはその生涯において、人間として生きることが難しい人々と出会っていきました。子ども、病人、障がいを抱える人、女性、これらの人々は人間でありながらすべての人間に与えられているはずの尊厳が無視され、人格が奪われていました。このような人々は生きることには希望を見いだせないだけでなく、自分自身を価値あるものとして考えることができず、自分の存在を否定的に、悲観的に捉えています。そのような人々にイエスは出会っていききました。

当時、神の掟として絶対的権威を持つていた律法によって、人間の尊厳、人格が奪われている人々にイエスは自ら近づいていき、出会い、関

わりを持ち、時に語り合い、食事を共にすることによって、そのような人々を丸ごと受け止めていきまし
た。それは当時の社会では、神を冒
瀆する行為であり、決してあつては
ならないことでしたが、イエスは率
先してそのような生き方を選んでい
きました。イエスとの出会いによっ
て、人格無き者として考えられてい
た人々はイエスに受け止められる経
験をし、自分という存在に価値を見
いだし、律法によってがんにがらめ
にされていた生活から解放され、自
由を獲得していきました。

イエスが生涯を通してこだわった
こと、それは目の前にある存在を丸
ごと受け止めるということとです。そ
の人が何を持っているか、何を持っ
ていないかということではなく、そ
の人の存在そのものに価値を見いだ
したのです。

現代の日本人に欠けている感覚の
一つに、自己肯定感というものがあ
ります。自己肯定感という言葉を目
本で初めて用いたのは、現在京都教
育センター代表で臨床心理士をして
おられる高垣忠一郎さんです。高垣
さんによると、自己肯定感とは「自
分が自分であつて大丈夫」という感
覚です。

昨今の日本においては不登校の子
どもや慢性化する引きこもりといつ
た社会問題が叫ばれています。それ
だけでなく、老若男女、年齢問
わず、多くの日本人が自分という存
在に価値を見いだせない、自分など

いないほうがいいという自己否定を
する傾向にあるようです。競争を求
める学校環境、非人間的な労働環
境、現代の家庭環境、幼少時の教育
などによって、現代人は自己肯定感
を持ちにくくなっており、そのよう
な状況において自己肯定感の回復こ
そ、一つの解決策であると高垣さん
は言います。

高垣さんは自己肯定感という言葉
が今では様々な意味づけがなされ、
手垢がついた状態になっていると言
う、改めて自己肯定感について、こ
う説明します。

「筆者が語り続けてきた『自分が
自分であつて大丈夫』という規定
は、存在レベルの肯定である。機能
レベルの肯定ではない。できるとか、
有能だとか、役立つとか立たないと
か、そういうレベルのものではない。
むしろ、そういうレベルで評価され
ることなしには存在が許されなけれ
ばならない状況への批判を込めた自己
肯定感なのである」(高垣忠一郎「私
の心理臨床実践と自己肯定感」立命
館産業社会論集』第四五巻第一号二
〇〇九年六月)。

例えば、イエスは生涯を通して「自
分が自分であつて大丈夫」という感
覚、存在そのものに目を向ける自己
肯定感を強調しました。そのような
イエスの根底にあつたのは神による
大きな肯定だと思えます。旧約聖書
イザヤ書にこう記されています。
貴く(「イザヤ43章4節」)

神は私たちがすでに価値高く、貴い
存在としてくださっている。イエス
はわたしたちに対し、丸ごとを受け
止める自己肯定感を与えました。そ
れはわたしたちのいのちそれ自体、

「変わるもの」・「変わらないもの」

〈チャペル・アワーの奨励より〉

梅花学園同窓会会長・本学名誉教授 川端 澄子



長年、梅花に勤めさせていただき
ましたが、礼拝は初めてでなにお
話していいか戸惑いました。
そこで本日のテーマとしましては
2つに分けました。私の中で「変わ
るもの」と「変わらないもの」です。

＊まず「変わるもの」

私の専門は「ファッショ論」色
彩論」です。

＊ファッション

ご存じのように「ファッションと
はその時代に多くの人々に支持さ
れ、変化していくものです」。

わたしたちの存在そのものが「価値
高く、貴い」ということなのです。
あなたがあなたであつて大丈夫。
そのメッセージを心に納めて、生き
ていきたいと思えます。

もつとも代表的なものに皆さんも
履かれている「ジーンズ」がありま
す。アメリカ大陸にヨーロッパから
移民してきた開拓民が幌馬車に使
われていた丈夫な木綿の布で、作業着
のパンツを作ったのが始まりです。
リーバイスのジーンズは労働者とし
て人々に支持されました。1960
年代、大学生が従来の「既成概念の
社会」に反発して起こった学生運動
としてジーンズを履いた学生がアメ
リカの大学の正門前で座り込み自分
たちの主張をアピールしました。穴
あき、地べたに座つた汚れたジーン
ズは、大人からはかなり批判があり
ました。しかし、世界の若者はその
主張に共感し、その表現としてジ
ーンズが象徴となりました。

大人に悪評価のジーンズは若人に
支持され、やがて世界のファッショ
ンを発するパリの有名なデザイナー
がシルク地に刺繍やビーズを付けた

ジーンズを発売し、大人達に受け入れられていきました。さらに今日皆さんが履かれているストレッチ素材やダメージジーンズへと変わっていききました。ファッションにおいては、従来のお金持ちの「上流社会」からの流れが、若者達による下から上へと「逆流」し変わって行きました。

今年のベストジーニスト賞はタレントのDさんです。この賞はもともと格好良くジーンズを履いている人に与えられたものです。代表的な存在は歌手のKさんでしたが、殿堂入りしたときからその年最も注目された人へと変わっていきました。なぜKさんだったかという点、ジーンズショップに外人向けの丈の長いジーンズが棚の端っこに置かれていました。ある日突然日本人の足が10cmも伸びるはずがないのに、飛ぶように売れた。驚いたショップの方が客に聞くと「昨日TVでKさんが裾を折り上げ裏を見せてはいていた」とのこと。一夜にしてロールアップして履くジーンズファッションが全国に広まっていきました。その後もKさんは、ジーンズのファッショリーダーで数回受賞しました。

また今年の流行語大賞は12月2日に発表された「ワンチーム」でしたね。昨年の大賞はもう皆さんは覚えていらっしやらないと思いますが「そだね〜」「ひよっこりはん」でした。このように流行はその時代により「変わっていった」こそ新鮮なものです。

☆色彩

色彩というならば皆さんはよく黒色を着られると思います。従来黒色は「喪の色」として日常あまり着られない色でした。1980年代に日本のデザイナーの二人がパリのコレクションで、全身真っ黒、ダブダブの穴あきの服を発売しました。それまでパリコレではバスト・ウエスト・ヒップは体にピッタリフィットした女性のボディを意識した一着何百万、ドレスでは何千万円とする作品が有名なデザイナーにより発表されていきました。二人のコレクションを観たパリの有名な新聞、雑誌の記者達は「日本人は洋服を壊すとしてもない人だ」と袋だたきにしました。しかしそのショーを観た一部のデザイナーや若者達が、それらの服を「今までにない新しいもの」として絶賛しました。今日「黒色の服」や「ボディラインを意識しない服」は普通になっていきます。

このようにファッションは時代とともに、私たちの身近な「変わるもの」代表なのです。

「変わる」ことは新鮮な刺激を人々に与えます。その原動力は「若者のパワー」です。

☆「ごき」に「変わらぬ」ものは

私事ですが小さい頃「自分で服」を作りたいと夢を持っていました。梅花の家政科で学び、まだ技術が足りないと思いつい「専門学校」で2年間学びました。その後梅花に就職させ

ていただきました。私自身の考えは「あの時もつとやつとけば良かった」と思わないように「後悔したくない」との思いが常にありました。学生時代には「今自分に与えられている時間はなにか」「なにをすべきか」と考え、はつきり言って「後悔結果、トップ成績で卒業しました。専門学校では苦手なデザインに力を入れ、日本のビックなファッションコンテストで金賞を受賞しました。精一杯努力すれば結果は付いてくると実感しました。

その後、大学に勤め「研究」をし、「論文」を書くようになり「被服心理学」の分野がアメリカから入って来ました。そこには「多変量解析」という統計処理が必要となり、コンピュータを使うことになりました。皆さんが今日使っておられるパソコンはまだ開発されておらず、大型コンピュータを使う必要がありました。全国に6カ所しかなく、この梅花は大阪大学の施設を使うように文科省より割り当てられていました。もちろんプログラムもすべて自分で作成しなければなりません。当時は一つのデータと解析に要するパッチ式カードは数百枚になり大変な時間がかかりました。数式の一文、記号が間違っていればエラーとなり動きません。そのエラーの箇所を見つけて出すまでまた大変な時間を要しました。阪大の大学院生に混じり、24時間オープンセンターで統

計学の本を見ながら必死で今で言うソフトを作り、解析へと頑張りました。「人に出来ることは何時間かかっても必ず自分にも出来る」といつも励まし自分にムチ打ち研究を続けました。その結果の論文は日本繊維機械学会の「論文賞」を共同研究で受賞し、アメリカの学会でも発表いたしました。

「後悔しないように最大の努力をトコトンする」という私の生き方は今も変わりません。

☆もう一つの「変わらぬ」ものは

皆さんもこの大学に入学して何度か聞かれ、卒業までに目にされるスクール・モットーの聖句は「人にしてもらいたいと思うことは何でもあなたがたも人にしなさい」です。私も学生時代には軽く聞き流していた事は事実です。気の合う友達と毎日楽しく過ごしてしまいました。しかし社会に出ると一番大変なことは「いろいろな人と出会い」で好きな人とはかり付き合うのではなかった。そこで最も大変なことと感じたのは「人間関係」「人とのかわり」です。勤めている間も、いろいろな場面に遭遇したときも、この聖句を思い出し反省と行動をしておりました。「介護福祉の生活」の一部分を担当しておりました時は、教科書に書かれている様々な知識も大事ですが、最後の時間にはこの聖句を黒板に書きましました。「自分だったら今何をしたいか」「すなわち「常に相手の事を

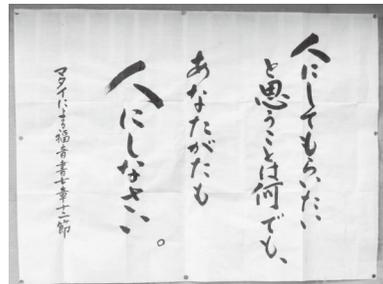
考える」ことが生活、社会の中で重
要ですと締めくくりました。「他者
への愛」があれば人はもつと優しい
気持ちになり、世の中は平和になる
と思いますが、これはなかなか難し
いことです。

私はこの年になって、人生におけ
る最も大事なことを教えていただい
た梅花で学べたことに感謝しており
ます。私自身は在学時代、何となく
この聖句を右から左へと聞き流して
いました。人から今あなたの大切に
している言葉はと聞かれれば「なん
でしょうね」と言いながら、人には
言わず、この「聖句」をいつも心が
けています。

❀「終わりに」

今日お話をさせていただいたこと
は、あくまでも私の考えであり、皆
さんがどのように受け取られたかは
分かりませんが、まず「変わるもの」
へのエネルギーは「若いパワー」だ
と思います。しかし「それに流され
ない」また「受け入れる」には多く
の知識をしつかり身につけ行動でき
る判断力をつけるのが大事です。そ
れは「今」です。

日々「チャレンジ&エレガンス」
の精神を持ち、そして長い人生にお
いて困難にあった場合は142年の
歴史ある我が学園の「変わらないも
の」「すなわち「スクール・モットー」
があなたの行動の基になればいいな
あと思います。ありがとうございます。



学生会館横の聖句を、日本文化創造学
科3年生の田中祐佳里さんが、貴重な時間
を割いてここを込めて書いてくださいま
した。ご奉仕に心より感謝いたします。

川端澄子先生が、ご自身で作られた
七宝焼き作品を宗教部にご寄贈くださ
いました。ありがとうございます。

2018～2019年度
学生会館横の聖句のご奉仕



澤山保羅先生書の七宝焼き作品

澤山保羅先生書の
七宝焼き作品のご寄贈

2019年度 献金及び献品報告

いつも宗教部の諸活動にご協力頂きましてありがとうございます。
今年度は下記の台風被災地、東日本大震災の義援金と関連福祉施設
に集めた献金・献品を送付いたしました。ご協力いただきました
皆様へ心より感謝し、ご報告申し上げます。

《献金送付先》

前期献金	
・東日本大震災の義援金(被災者支援センター・エマオを 通じて被災地に送金)	20,000円
・パンダ園(心臓疾患をもつ子どもたちの保育園)	20,000円
・止揚学園(知能に障がいをもつ方々の施設)	20,000円
・救世軍希望館(児童養護施設)	20,000円
・大阪水上隣保館(社会福祉施設)	5,000円
・レバノンホーム(児童養護施設)	20,000円
・振込手数料(郵便局)	450円
合計	105,450円
後期 クリスマス献金	
・今年度台風被災地への義援金(兵庫教区 被災者生活 支援・長田センターを通して送金)	20,000円
・東日本大震災の義援金(被災支援ネットワーク 東北ヘルプを通して被災地に送金)	10,000円
・救世軍希望館	10,000円
・レバノンホーム	10,000円
・止揚学園	10,000円
・パンダ園	10,000円
・釜ヶ崎医療連絡者会議(路上生活者支援団体)	10,000円
・振込手数料(郵便局)	760円
合計	80,760円
総合計	186,210円

《 献 品 》 救世軍希望館へ持参 ※炊き出し用として

- 【食品】 米 40kg / 味付け海苔 1缶 / みかん(大) 2個
- 【日用品】 洗剤セット 1セット
- 日本キリスト教海外医療協力へ郵送
- 【海外国内切手】 約2,328g 【外国コイン】 113枚(575g)
- 【外国紙幣】 6枚(5g) 以上

第4回聖書動画コンテスト2019

奨励賞受賞

「その人は、誰よりも明るい」

本学情報メディア学科教授 遠山耕二



本年1月13日(月・
祝)に、東京市ヶ谷
にあるアルカディ
ア市ヶ谷私学会館
で、頭書のアワード
審査発表ならび
に表彰式が行われ
ました。

遠山ゼミ5期生
が制作した「その
人は、誰よりも明
るい」は、全応募
70作品の中から、
ファイナリスト19
本にノミネートさ
れ、最終的に「奨励
賞」に選ばれました。
写真は、賞状を受け取る
松岡未来さん(上)、駆け付けた遠山ゼミ5期
生、表彰された全員の集合写真(下)です。

賞状を受け取る
松岡未来さん(上)、駆け付けた遠山ゼミ5期
生、表彰された全員の集合写真(下)です。



学園クリスマス標語
—2019年度 クリスマス標語—
「えがおあふれるクリスマス」 学生会館前

アドベント音楽礼拝
2019年12月9日(月) 澤山記念館礼拝堂



アドベント点灯式
2019年11月28日(木) 学生会館前



クリスマスイブニング2019 クリスマス礼拝
2019年12月14日(土) 澤山記念館 礼拝堂



梅花女子大学 クリスマス礼拝
2019年12月23日(月) 澤山記念館礼拝堂



 キリスト教学学校教育同盟
 関西地区協議会総会
 梅花女子大学で開催

19年5月18日(土)午前10時30分より、大阪府茨木市の梅花女子大学澤山記念ホール及び礼拝堂を会場に、キリスト教学学校教育同盟関西地区協議会総会が開催されました。出席者は31法人中23法人、73名が集いました。

澤山記念ホールで開会礼拝が守られました。「無一物のよう」で」と題して高田太梅花学園宗教主事より、説教がなされました。



開会礼拝 高田太先生

その後、八田英二キリスト教学学校教育同盟関西地区代表理事、長澤修一本学学長・宗教部長、孫永律キリスト教学学校教育同盟事務局長の3名より開会のご挨拶がありました。



開会挨拶 八田英二先生

続いて、組織、議事、選挙、諸報告が行なわれました。

12時50分より、噴水のあるプラムガーデン、学生会館一階のステージG、Global Communication Villageなどを見学しながら、昼食会場に移動し、昼食後に法人ごとの紹介がなされました。

その後、午後2時25分から澤山記念ホールで「建学の理念と私学経営」と題して小坂賢一郎梅花学園理事長よりご講演がありました。



講演 小坂賢一郎理事長

10分の休憩の後、梅花歌劇団と梅花女子大学チアリーディング部にによる歓迎パフォーマンスがなされました。

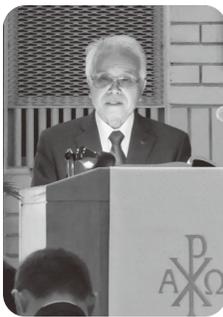


梅花歌劇団演技



チアリーディング部演技

次に、礼拝堂に移動して閉会礼拝が行われました。司式・説教は近藤十郎梅花学園学園長、説教題は「成長させてくださったのは神」でした。



閉会礼拝 近藤十郎先生

閉会礼拝の後、次期会場校の湊晶子広島女学院院長・学長より閉会のご挨拶がありました。最後に山田正夫梅花学園豊中キャンパス本部長より、ご挨拶があり、和やかな雰囲気の中で終了いたしました。報告 梅花女子大学宗教部職員奥西まゆみ

 第5回キリスト教
 看護教育推進会議
 梅花女子大学で開催

19年11月30日(土)、大阪府茨木市の梅花女子大学の礼拝堂及び看護保健学部看護学科を会場に、第5回キリスト教看護教育推進会議が開催されました。これまでの開催担当校は、同志社女子大学看護学部、聖路加国際大学看護学部、福岡女学院看護学部であり、それらを継承した開校となりました。現在、キリスト教学学校教育同盟校には15校の看護教育関係校があります。今回は、大阪北部に広がる小高い丘の上のあり紅葉の木々に包まれたキャンパスに、9校からの教員、キリスト教学学校教育同盟事務局長(15名)及び、梅花学園・梅花女子大学の教職員(34名)総勢49名が集いました。



講演 長澤修一先生



チアリーダー部演技

開会礼拝後、今回の開催テーマ「キリスト教学校における看護教育とは」看護教育カリキュラムにキリスト教主義をどう取り入れるか」として、発題とワークシヨップが行われました。はじめに、梅花女子大学の長澤修一学長(宗教部長)による「澤山保羅と愛なる女学校」が講演されました。その概要は、①明治初期におけるキリスト教と女子教育、②梅花女学校の誕生(1878年)と創設者である澤山保羅先生の業績、③スクールモットー「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい」(マタイによる福音書7章12節)についてでした。

集合写真撮影後、澤山記念ホールへ移動し、梅花女子大学が誇るチアリーダー部による歓迎の演技(「絆」と「元氣!笑顔!を忘れずに

歩み続けよう」)をご披露させていただきました。

ワークシヨップでは、5グループに分かれ、副題「看護教育カリキュラムにキリスト教主義をどう取り入れるか」についての意見交換(各同盟校のカリキュラムの工夫や取組み等について)と全体発表が終始、和やかな雰囲気の中で行われました。グループ討議では、①キリスト教の教えと看護の理念の共通性を再認識できた。②建学の精神を促進する一要因としてイベントやセレモニー開催、チャペルアワー等がある。③授業や実習等での看護の体験や事例について宗教主事と一緒に解釈してみることも大事、④キリスト教看護教育推進会議の継続が大切な意見も出されました。



ワークシヨップ

報告 梅花女子大学看護保健学部教授 大井美紀
キリスト教学校教育同盟キリスト教学校教育一月号(2020年1月15日発行)より転載

〈小梅祭 学生礼拝〉

「友とは」

現代人間学研究科心理臨床学専攻
修士課程1年 嶋崎 知子



せたからである。(ヨハネによる福音書15章15節)

わたしはあなたがたを友と呼ぶ。父から聞いたことをすべてあなたがたに知ら

❖理想的な友とは
どんな時でも心を開いて話し合い、喜怒哀楽を分かち合い、過ちがあれば忠告して正しいところに導き、弱いところがあれば愛と忍耐をもって励ましてくれる人(ヨハネによる福音書15章15節)

みなさん、こんにちは。学生のみなさんのお母さんのような年の私、なぜ梅花の大学院生になったのかといいますが、「大学院に行きたかったなあ」と、ずっと思っていたからなんです。人生100年時代はこのままではよくない、と思ったので、家族や牧師先生にはげましてもらって心理臨床学を勉強することにしました。臨床心理士になれたら、今からでもだれかの役に立てそうです。すしね。

さて今日は、牧師先生からもらった、子育ての学びの会のための「友とは」というメモからお話しすることにします。小さい子どもをもっておかあさんたちの悩みの多くは、じつはママ友との人間関係だったんですよ。

このメモを書いた牧師先生は私と同年代で、20代の頃から、痛いほど気持ちいい。忠告してくれる人でした。また、別の高校時代からの友だちは、私のことを私自身よりよく知っていて、きびしいけれどピッタリの忠告をたまにしてくれれます。人とうまくつき合うのも大切ですが、真実な友だちって、こういう人たちじゃないかと思っています。

✿気をつけなければならぬ人たちは、一方、気をつけた方がいい人たちは、たとえばこういう人たちです。

- ・他人のことをあざける人
- ・うわべだけで人を判断する人

悪口の多い人からは、はなれた方がいいかも知れませぬ。信用できない友だちがたくさんいるよりも、真実な友だちが一人いるほうがいいのではないですか。べつの牧師先生は、「明るく、肯定的な人とつきあうように」とよく言っておられます。ぜひそういう人を見つけてください。

「イエス・キリストは、きのうも今日も、また永遠に変わることのない方です」（ヘブライ人への手紙13章8節）

究極の理想の友とは…「良き友」であられるイエス様です。イエス様とともに歩めば、いつか必ず特別な友だちも与えてくださいます。

もし今日、イエス様をご自分の救い主として受け入れたいという方がおられましたら、声をかけてください。私の話を聞いてくださって、ありがとうございます。



「パンダ園のクリスマス」

日本文化創造学科2年生 大野 愛奈



クリスマスMASの日、パンダ園にお邪魔しました。心臓や身体が不自由な子どもたちと保護者さんがいらつしやいました。みなさん明るくイキイキしていました。そのイキイキは辛いことを乗り越えた勲章のように思えました。病気が分かり、お医者さんや家族の支えがあったとしても、やはり世間がいう「健康な子供」ではないことに辛さを感じることもあったと思います。だからパンダ園のように似た病気の子どもたちがいると心強いです。お母さん同士も仲が良さそうに見えました。お互い助け合っ

て絆が生まれるのだなと思いました。私はパンダ園訪問の募集を見た時、よし、パンダのパーカーを着て行こうと決め、たぬきのリュックサックとうさぎの耳が付いたスニーカーを履いて行きました。誰もつっこんでくれなかったら寂しいなど不安でしたが、子どもたちが「たぬきさーん！パンダさーん！」と話しかけてくれてとても嬉しかったです。教会の方も「パンダになりきつ

て来たのね」と笑っておられました。

人形劇やクイズ大会もとても楽しかったです。どちらも手作りの暖かみを感じました。観ている子どもたちも人形劇ではお話に集中してしーんとしていました。クイズ大会ではキヤーカー盛り上がり過ぎていて、メリハリと集中力がすごいなと思ったのと同時に、物語の世界に引き込まれる人形劇の方もすごいなと思いました。クイズ大会は、それは絶対違うとつっこみを入れたくなるような問題と答えでした。絵がとても可愛らしくて癒されました。あの画力と場を盛り上げるテクニク見習いたいです。

お昼ごはんにおうどんとケーキとみかんをいただいた後、お花で工作をしました。デザイン性が無く苦戦している私の前で、好きなものをどんどん飾ってとてもかわいい作品を作っている子がたくさんいました。「かわいいね」と声をかけると「でしょ！でしょ！」とニコニコしていて、本当にここはいいところだなと思いました。私の後輩はお昼ご飯の時にいただいたみかんを飾っていて、流石だなと思いました。

学園創立142周年 記念礼拝及び 澤山保羅先生墓前祈禱会

2020年1月19日(日)



学園創立142周年記念礼拝
澤山記念館礼拝堂



澤山保羅先生墓前祈禱会
大阪市設南霊園

宗教部一年の歩み

宗教部はチャペル・アワー(礼拝)を守ることに重点をおいた一年だった。チャペル・アワーは学園の建学の精神を伝える重要な役割を担っている。宗教部は、心に残るメッセージを伝えることに全力を注いだ。

4月 聖書を読み祈る「オリブのつどい」

4月10日(水)より、毎週講義期間中の水曜日に学生及び教職員のための「オリブのつどい」を昼休みに宗教部事務室で開催した。前期は、日本基督教団神戸多聞教会牧師の近藤誠先生が導いてくださった。後期は、火・木曜日に開催した。聖書を輪読し、祈りの時間を持った。

竹の子掘りと販売

竹の子掘りのボランティアを募り、学内で販売した。売上金は7,600円になった。この売上金は、前期献金に充当した。

5月

キリスト教学校教育同盟 関西地区協議会総会開催

5月18日(土)午前10時30分より本学茨木カマーデンキャンパスにてキリスト教学校教育同盟関西地区協議会総会を開催した。

薔薇育成ボランティア募集

F棟と図書館前(坂の登り口左側)に植えられているアンネの薔薇の育成ボランティアの学生を募集した。週に1回、宗教部に集合し、植栽の手入れをして美しく薔薇を咲かせたり、またこの薔薇の花弁を用いてポプリ



を作ったりと、「アンネの薔薇」を中心とした繋がりやの輪を広げて行きたい。

6月 青梅の収穫と販売

今年も、学内で実った青梅を有志の教職員・学生ボランティアで収穫し販売した。毎年、5月末〜6月中旬辺りの適当な時期に収穫し販売しているが、今年は6月上旬に収穫した。売上金の30,800円は、前期献金に充当した。



9月 教職員研修会・建学の精神プログラム

9月18日(水)午後2時からF棟701教室で神戸女学院院長・理事長 飯塚先生をお招きして教職員研修会・建学の精神プログラムを開催した。「建学の精神 アメリカーンボードから考える」と題してご講演頂いた。



11月 小梅祭「学生礼拝」

11月23日(土)午前11時より「学生礼拝」を礼拝堂で行った。お話しは「友とは」と題して、大学院修士課程1年生の嶋崎知子さんが担当した。司会は食文化学科4年生の花田望沙さん。奏楽は水間泉先生。聖歌隊による「むくいを望まで」の合唱があった。



キリスト教学校教育同盟 第5回看護教育推進会議開催

11月30日(土)午後1時より本学茨木カマー

デンキャンパスにてキリスト教学校教育同盟第5回看護教育推進会議が開催された。

アドベント点灯式

11月28日(木)午後5時50分から6時20分迄、第一部は学生会館前でアドベント点灯式を行った。食文化学科2年生の吉原更沙さんのキーボードによる前奏で点灯式は始まった。宗教主事高田太先生の聖書朗読の後に学長・宗教部長の長澤修一先生に点灯して頂いた。聖歌隊による「もみの木」の合唱があった。第一部の点灯式終了後、第二部の点灯式を澤山記念館一階北側ロビーで行った。みんなでクリスマスソングを歌った。その後、礼拝堂の右側控室で懇親会を行った。



12月 アドベント音楽礼拝

12月9日(月)午後1時よりアドベント音楽礼拝を礼拝堂で行った。同志社大学神学部教授の関谷直人先生より「賛美で迎えるクリスマス」と題して奨励があった。また関谷先生のギター、高田太先生のカホンによる伴奏で讃美歌を合唱した。

クリスマスライブニング2019

12月14日(土)にクリスマスライブニング2019が開催された。午後2時半から3時半迄の間、礼拝堂で、クリスマス礼拝が行われた。奏楽は水間泉先生。司会は高田太先生。早稲田摂懸高等学校ウインドバンドのアンサンブル演奏の後、日本基督教団浪花教会牧師の山口恒先生より「えがおあふれるクリスマス」と題して奨励があった。

大学 クリスマス礼拝

12月23日(月)午後1時より大学のクリス

マス礼拝を礼拝堂で行った。奏楽は水間泉先生。司会は高田太先生。キャンドル点灯は心理学科1年生の永井美緒さん、こども学科1年生の山崎千年さん、看護学科1年生の山内夏実さんの3名が担当した。日本基督教団大阪教会牧師の本庄侑子先生より「おめでと、恵まれた方」と題して奨励があった。クリスマス献金のお祈りは山崎千年さんが行った。



パンダ園のクリスマス会訪問

12月25日(水)京都市左京区にある心臓病児共同保育園パンダ園のクリスマス会に学生・教職員の5名が訪問した。



1月 創立142周年記念礼拝

1月19日(日)午前10時から礼拝堂で創立142周年記念礼拝が開催された。学園長の近藤十郎先生より「風は立ち、時流れても」と題して奨励があった。記念礼拝の出席者は約100名。その後、大阪市設南霊園に移動し、澤山保羅先生墓前祈祷会を行った。墓前祈祷会の出席者は26名。



3月 卒業礼拝の中止

大学・大学院の卒業礼拝を3月16日(月)午前9時15分より、礼拝堂で開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のために中止となった。



2019年度

チャペル・アワー
感想文より



「チャペル・アワーへようこそ」
日本基督教団泉北ニュータウン教会牧師

稲山聖修先生

子どもは必ずしも元気で勉強ができる訳ではなく、どのような悲しみか分かるうとすることが大切。時代を超えて、「聖書」を大切にする。これが私と澤山先生を深く結ぶものになっている。命とは役に立つから大切なのではないということを知れる、命の泉がチャペル・アワーであるということがわかりました。チャペル・アワーでこのようなお話をして頂いているということは、これからの人生にとって、貴重な体験になりました。

「求めなさい。そうすれば、与えられる」
学園長 近藤十郎先生

私たちの学校のスクールモットーである「一人にしてみたい」ということは何でもあなたがたも人にしなさい」とはよく聞き、覚えていた。しかしその前の「求めなさい。そうすれば、与えられる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。」は忘れがちである。この文をそのままの意味で受け取ってしまうのは間違っている。苦勞もせず手に入れられると思込んでいるようでは、本当に大切なものは手に入らないと思う。努力の結果を自分のものに返すことが大事である。それを実行する期間が今なのである。これからの生活を通して、自分のためになるように行動して、価値のある経験や知識を身につけたらと思う。人が相對評価されず、一人ひとりが個人として尊ばれるような世界をつくらうという考えをもつ。それが愛のある女学校が生きたられた契機。マザーテレサは「言葉だけで愛するのではなく、自分が痛むほどに愛しなさい」とシスター達に言われた。これは現代に広く伝わってほしいと思う。口先だけで愛をささやく人が多いと感じるからである。

「梅花ファミリア」
元同志社大学教授 本井康博先生

今回の聖書箇所はいつ聞いても素晴らしいな、と思います。自分を一番に考えるのではなく、人のために行動する、という考え方をよく尊敬します。本井先生のお話もとても素晴らしいかったです。新元号「令和」に少しかわりがある「梅花」それを聞くだけでもいい時代になる気がしました。奨励題の「梅花ファミリア」もなんだかあたたかい言葉で歓迎されているようで嬉しかったです。

「共に喜び、共に泣き、共に生きる」
日本基督教団能登川教会牧師 谷 香澄先生

多くの人が勝つことを目標とし、しゃがみ込んでいる人を見て知らぬふりをして走るとはとても凄くことだと思いました。自分の結果を犠牲にしてまでできるといふ人はあまりいないと思います。私も今までよりも少しも周りの人に寄り添える人になりたいたいと思いました。

「病児から零れるいのちの輝き」
パンダ園保育士 佐原良子先生

幼い子供が病児になったとき、大人のように理解がまだできず「どうして自分だけ」という気持ちになると、佐原先生先生の絵本は病児の子どもの勇気、力になる素敵なお話だなと思いました。たとえ生まれてきた子どもが健康でなくても、その子が生まれてきた意味は必ずある。たとえ一緒に過ごす時間が短くてもその時間が幸せであるように考え過すことが大切なことなんだと思いました。

「背負われているわたし」
日本基督教団豊中教会牧師 山崎道子先生

病人、罪人、いやいやしていたイエスに自分もやしてほしいという人々が大勢いた。家の中に入れないので屋根にのぼりイエスがそのうち場所を降りるす行に「確かな信仰を感じた」と言っていたイエスは病人を許した。その人の今の姿をそれと肯定するイエスにどこまでも深い愛を持っていると感じた。病人の苦しみは存在を認めてもらえないことを見抜き、イエスは人々に宣言をする姿は人々に強い意志があり、行動力があり、人々の心に寄り添うこ

とができる人だということが証明されたと思ふ。こんなイエスのように、自分の背負うものを許して下さる人々に囲まれた生活ができていふことを改めて実感し、考えることができた。私はそのような人になりたい。

「世界と関わる」
日本基督教団磐上教会牧師 成田うし先生

自分の知って居る世界の中に閉じこもるのではなく、知らない世界へ出て行くことで他者、隣人との出会いがあるということを生きていくの大切なことだと思ふ。隣人との出会いに関わることで、その人が自分としての隣人になるだけでなく、自分もその人にとっての隣人になるという話は印象深かったです。

「いのちの希望の中で」
日本基督教団泉北ニュータウン教会牧師 稲山聖修先生

難病をもっているから、元気な人よりは劣っているとか、そういう扱いじゃなくて、その子の夢を叶えるために、周りも協力するその気持ちが大切だと思った。生きた証が何かに挑戦することに残ることも学んだ。

「言葉にして伝えましょ」
本学看護学科長・本学看護学科教授 齊藤早苗先生

母子手帳にはどんな出産だったかを記されているのは知らなかった。今のような医療技術が進んでいる世の中でも、赤ちゃんや妊婦さんを助けて家族をそろって暮らせるというのには、あたりまえのようで全然あたりまえじゃない、キセキのようなことなのだと思ふ。家族にも友人にも感謝とお願いを言葉にして伝えられるようになった。

「黒い虹」
日本基督教団阿倍野教会牧師 山下壮起先生

ノアの物語は初めて知った。神様が人は変わることにはない、人が変わらうと人々も変わらうと、今の私達が友人の間で嫌な事があつたりするとどちらかが折れて謝るといふことがある。そして、もう一人のほうも謝ってくれとある。だから、一人が変わると周りも変わるのには確か

に、と思つた。しかし、人が変わることはないというの間違ひだと思つた。「黒い虹」と聞いたとき、虹ではないと思つたが、先生の話を聞いて虹に黒が入らない理由がわかつたし、しかし、ネガティブな色とされていくも、他の色に染まらず、自分をしっかりと持つという良い部分もあるのでは、と思つた。

「わたしとあなたの物語」
日本基督教団千里聖愛教会牧師 川江友二先生

人間関係がこじれてしまつても、救つてくれたのは友人で、最終的には人とのつながりが大切なんだと思つた。自立することは、依存する先を増やすこと、ということを知り、新たに知つた。

「心にまみれて」
止揚学園園長 福井 生先生

止揚学園は仲間全員が家族だといふ考えのもと、そこにある園でその考え方は素敵だと思ふ。田代さんのお話は彼が本当に優しい人間であつた事がよく分かる内容で、福井園長先生が田代さんと関わってきた時間で、福井園長の家族のような時間で、それ程親しくなるのはこの園だからと人生を生きてもいいと思ふ。田代さんはきちんと人生を生きてもいいと思ふ。田代さんはきちんと人生を生きてもいいと思ふ。田代さんはきちんと人生を生きてもいいと思ふ。

「七転び八起き」
日本基督教団鳳教会牧師 三浦 遼先生

七転び八起きという言葉の「転」という感じにはどの状況にも当てはまる。例えば、人間関係、仕事、家族での問題など何にでも挫折して立ち止まってしまうということが人生には何回

もある。そこで自分がどのように踏ん張り、立ち直ろうと努力するのかわかるとい意味が込められている。とても深い意味があり、とても良い言葉だと思った。また、支えあつていくのはとても大事だと感じた。

【光の国から帰るための】

日本基督教団大阪教会牧師 尾島信之先生
勇気や希望を追いかける…。なんとも輝かしいことだ。それができる人間はほんの一握り。ほとんどの人は途中で挫折していく。純粹にそれができるのなら、この世の中はもっと平和だろう。そして自ら死を選ぶこともないだろう。

【できないのか、やらないのか】

日本基督教団淀川教会牧師 川合 望先生
私も小学生の時に抱いた夢を悩みながら持ち続けていて似ているところがあるなと思いましたが、「できないのか、やらないのか」という言葉は私の心と言いついて一番の言葉で、今までやらない言いつけばかり考えていたんだなと気づくことができました。素敵なお話ありがとうございます。ごさいました。

【愛なる女学校】

本学宗教主事 高田 太先生
聖書には、色々なキリストの言葉があるが、その言葉は、他人がいてこそ初めて実現できるという事に気付いた。他人に優しくすることが、愛じゃないけど、そういう心を持って生活することが重要なことだと考える。

【希望を生かす力】

日本基督教団神戸多聞教会牧師 近藤 誠先生
澤山保羅先生は、初めは自分のために留学に行っていました。相手のためにクリスチャンになり、日本でキリスト教について教え、女子教育を教えました。自分の命をかけてでも相手に無償の愛をささげられた澤山保羅先生をあらためて尊敬しました。

【刈り入れまで】

日本基督教団仁川教会牧師 杉田俊介先生
私にも、人を批判して自分が無意識に偉くなったように感じる事があつたな、と思ひ返すことができました。違うもの、自分が悪だと思つたものを頭ごなしに否定するのではなく、

受け入れる事が大切だと改めてわかりました。

【愛を行う人 ―マザーテレサから―】

救世軍希望館顧問 前田徳晴先生
希望館という、素晴らしい施設の存在を今日初めて知りました。マザーテレサさんについてのお話、愛にあふれた、本当にすばらしい方とせんでした。羊と人で「美しい」という文字になる。イエス様のことを表した字だということが分かった。チャペル・アワーや礼拝などがあることが、どれほど素敵なことなのか、改めて実感しました。マザーテレサさんがイスラムの人をかくまつたことについて、本当に愛ある人だと思ひました。嘘をつく事など、いけない事だというのは分かりました。マザーテレサさんのついでに愛にあふれた嘘だなど思ひました。口先だけの愛、聖書についての勉強は高校生の時から学んできましたが、聖書から学んだ事をしてきない。愛を持って、行動にうつせるようになろうと思ひました。マザーテレサさんのように、愛、そして強さを大切に生きたいと思ひます。



【自分ファーストではなく】

社会福祉法人レバノンホーム理事長 有澤慎一先生
私がアラハムのように権力を持っていたら、きっと私も自分ファーストになっていたな、と思ひました。自分ファーストは周りの環境も壊し、今まで築いてきたものを全て崩壊してしまう。恐ろしい事を改めて知りました。自己中心的な考えは避け、周りよく見る事ができる人にならなりたいです。これからの人生に必要なことを教えていただいたので今後の生活に活かしたいです。

【英検準2級】

日本基督教団神戸雲内教会牧師 床次隆志先生
資格をもっているから優れている、というのは確かかもしれませんが、人としての中身の良さ、素敵な部分を見る事も大切である事が分かった。何を大切にするか、何に重きを置くか

によって、世界の見え方は変わり、その見える世界をも大切に、違う見方をする事も大切であるのだと思ひました。

【私に預けられたもの】

日本基督教団東灘教会牧師 南 豊先生
自分にはかない能力や才能が何なのか、私にはまだ分かりませんが、もし見つけられたら他の人と比べて誇るのではなく、人の為や世の中の為に使いたいと思ひました。

【心を清く】

日本基督教団京都復興教会牧師 深谷与那人先生
「清い」この言葉は「きれい」という意味であるのかわかると感じているのですが、ギリシャ語の意味、混ざりものがない純度が高い。この意味を聞き、なるほど感じます。キリストは「ありのままであることは幸せである」と教えて下さっているのを知り、今はやりたい事の中に邪魔な事もあるけれど、今のありのままの姿でいて、やりたい事を続けて、幸せに暮らしていけたらいいなと思ひます。

【主の天使が命じたおひき】

日本基督教団長岡京教会牧師 韓 守信先生
韓先生がとても熱く話されているのを見て、キリスト教を信じている方は本当にイエス・キリストや神の事を信じているのだなという事が伝わってきました。私はキリストのことを信じてないけれど、とてもおもしろい内容の物語だと感じます。そしてこんなにもみんなが信じる物語を書いた人はすこいにも思ひました。

【賛美で迎えるクリスマス】

同志社大学神学部教授 関谷直人先生
主の祈りがとても楽しかったです。人への思いやりがわかる曲が多くて、和やかな雰囲気のお話だと思ひました。知っている曲もあつて、私はとても楽しい時間だったと思ひます。素敵な礼拝をありがとうございます。

【変わるもの】・【変わるらないもの】

梅花学園同窓会会長 本学名譽教授 川端澄子先生
ファッション界は時代と共に変わっていくも

のが多い。特にゾーンズでは、変わるものについて若者を中心に大きく変動する。これについて話を聞いて、変わる事の重要性を考えさせられました。けれど、同時に変わらないものも大切に感じました。あまり意識しなかつたスクール・モットーもこれを機に考えていきたいと思ひます。

【おめでとく、恵まれた方】

日本基督教団大阪教会牧師 本庄侑子先生
聖書での「恵み」の意味を改めて考えさせられました。才能や環境に恵まれたのではなく、神から与えられたもの、その恵みに感謝すること。人には見えない大変な状況であっても、一生懸命に生きて、いれば必ず恵みを感じることもできると思ひました。

【母の存在】

本学口腔保健学科教授 永井るみこ先生
今はまだ母の存在の大きさは実感がわきにくいけど、いつか分かるようになって感謝の気持ちが沸いてくるのかもしれないです。母と子の間で信頼関係や愛があるからこそ、迷惑をかけたくないと思つたり、そこにいるだけでいいと思ひたいのだらうなと思ひました。

【笑顔と3つのおひき】

本学こども学科教授 前山 直先生
生きていくうえで人とのおひきはとても大事だと思つた。自分に影響を与えてくれる人との出会いを大切に生きていこうと思つた。笑顔でいることで自分自身だけでなく、周りの人にも良い影響を与える事ができる。笑顔でいることの大切さを感じた。

【愛したリボンをかけて】

日本基督教団千里聖愛教会伝道師 川江亜希子先生
ハイトッチに笑顔がついてくる。誰かと触れ合う機会が多くなる。中、大人になるにつれて触れることをしなくなるが増える。この話を聞いて、確かに触れる機会はいくらでも思ひました。改めて触れ合うことの大切さを考えさせられました。



2019年度 チャペル・アワー講師一覧

(敬称略)

月	日	奨励題	略歴	奨励者
4	8	チャペル・アワーへようこそ	日本基督教団泉北ニュータウン教会牧師 梅花女子大学非常勤講師	稲山 聖修
	15	求めなさい。そうすれば、与えられる	本学学園長	近藤 十郎
	22	梅花ファミリー	元同志社大学教授	本井 康博
5	6	共に喜び、共に泣き、共に生きる	日本基督教団能登川教会牧師	谷 香澄
	13	病児から零れるいのちの輝き	バンダ園保育士	佐原 良子
	20	背負われているわたし	日本基督教団豊中教会牧師	山崎 道子
	27	世界と関わる	日本基督教団磐上教会牧師	成田ういし
6	3	いのちの希望の中で	日本基督教団泉北ニュータウン教会牧師 梅花女子大学非常勤講師	稲山 聖修
	10	言葉にして伝えましょう	本学看護学科長・本学看護学科教授	斉藤 早苗
	17	黒い虹	日本基督教団阿倍野教会牧師	山下 壮起
	24	わたしとあなたの物語	日本基督教団千里聖愛教会牧師	川江 友二
7	1	心にまみれて	止揚学園園長	福井 生
	8	七転び八起き	日本基督教団鳳教会牧師 梅花中学校・高等学校聖書科非常勤講師	三浦 遥
	22	光の国からぼくらのために	日本基督教団南大阪教会牧師	尾島 信之
	29	できないのか、やらないのか	日本基督教団淀川教会牧師	川合 望
9	30	愛なる女学校	本学宗教主事	高田 太
10	7	希望は生きる力	日本基督教団神戸多聞教会牧師 梅花中学校・高等学校聖書科非常勤講師 梅花女子大学非常勤講師	近藤 誠
	14	刈り入れまで	日本基督教団仁川教会牧師 神戸女学院大学非常勤講師 梅花女子大学非常勤講師	杉田 俊介
	21	愛を行う人—マザーテレサから—	救世軍希望館顧問	前田 徳晴
	28	自分ファーストではなく	社会福祉法人レバノンホーム理事長 日本基督教団池田五月山教会牧師	有澤 慎一
11	11	英検準2級	日本基督教団神戸雲内教会牧師	床次 隆志
	18	私に預けられたもの	日本基督教団東灘教会牧師	南 豊
	25	心を清く	日本基督教団京都復興教会牧師	深谷と那人
12	2	主の天使が命じたとおり	日本基督教団長岡京教会牧師	韓 守信
	9	賛美で迎えるクリスマス	同志社大学神学部教授	関谷 直人
	16	「変わるもの」・「変わらないもの」	梅花学園同窓会会長・本学名誉教授	川端 澄子
	23	おめでとう、恵まれた方	日本基督教団大阪教会牧師	本庄 侑子
1	6	母の存在	本学口腔保健学科教授	永井るみこ
	20	笑顔と3つのわ	本学こども学科教授	前山 直
	27	愛しさにリボンをかけて	日本基督教団千里聖愛教会伝道師	川江亜希子

宗教部編集後記

梅花学園は、今年1月18日(土)に創立142周年を迎えました。今年も紅白の梅が満開になりつつあるこの時期に「チャペル・ニュース」第16号の編集を無事に終えることができました。

昨年を思い返してみますと、5月18日(土)にキリスト教学校教育同盟の関西地区協議会総会が、また、11月30日(土)には、第5回看護教育推進会議が、梅花女子大学で盛大に行なわれ、議みの内に終了いたしました。ひとつひとつの出会いを通して、神様の恩寵を感じ、神様の御手が優しく包み込んでくれているように思います。

9月18日(水)は神戸女学院院長・理事長の飯謙先生を本校にお招きして、建学の精神プログラム教職員研修会を開催いたしました。飯謙先生には「建学の精神アメリカンボードから考える」と題してご講演いただきました。その後、質疑応答の時間を持ちました。ご準備下さった飯先生に心より感謝申し上げます。

最後になりましたが、2019年度前期は、高田宗教主事が育児休業のため、日本基督教団泉北ニュータウン教会牧師の稲山聖修先生(元梅花女子大学宗教主事)にご協力頂き、前期のチャペル・アワーを無事に守ることができました。また、前期の毎週水曜日のお昼休みに行っていた聖書を読み祈る「オリブのつどい」は、日本基督教団神戸多聞教会牧師の近藤誠先生に導いていただきました。この場をお借りして感謝申し上げます。

2020年度も、一致団結して更り豊かな「主の年」にしたいと思っております。

見よ、新しいことをわたしは行ふ。

(イザヤ書 43章19節)

(0)